



# えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.21

令和3年2月1日

文責：校長 福島

## 歌いたい…



【令和元年度音楽発表会から】

これを書いている今は1月29日(金)の昼休みです。「おべんとうの日」だったので、給食の片付けもなくいつもよりも早く子供たちが運動場に出てきました。天気もいいのでたくさんの子供と先生たちが遊んでいます。ドッジボールをしている子供が、先生の後ろに隠れてジャージを引っ張りながら無邪気に遊んでいます。コロナ禍でいろいろな活動が制限されていますが、こうして運動場で元気いっぱい遊んでいる子供たちを見るとほっとします。

緊急事態宣言が出ている今、特に大切にしたいことが「子供の心を開放する」ということです。先週と今週は、教育相談旬間です。担任が子供一人一人と面談を行っています。子供が心を開き、担任を信頼して何でも相談できるように心がけています。感染症対策には十分に気を付けながらも、子供が安心して過ごすことができる学校であるように努めます。特に、こんな時だからこそ笑顔でいることは意識しています。

多くの制限があるのですが、一番つらいのはみんなで歌えないことです。歌を歌うと元気が出ます。歌を通して思いを伝えることができます。子供の歌声は心に響きます。心を開き、口を開き歌う子供の表情を見ると心が震えます。お別れ集会や卒業式では、当たり前のように歌を通して気持ちを伝え合ってきました。しかし今年はみんなで歌えない…悔しいです。どうするか。

学年が変わるこの時期、子供たちにはたくさんの思いがあります。その思いを伝え合う新しい形を今、みんなで知恵を出し合っていて考えています。

それにしても、1日も早くみんなで思い切り歌える日が戻ってきてほしいです。